

# ボクサー骨折に対する 固定法の工夫

(社)大阪府柔道整復師会

淀川ブロック

樋口 正宏

# 【目的】

ボクサー骨折(中手骨頸部骨折)では、総指伸筋腱の緊張によりMP関節過伸展を生じ、虫様筋の牽引作用により末梢骨片の掌側転位が増強されることにより背側凸変形を生じる。完全整復ができてても骨癒合時に背側凸変形(40度以下の許容範囲のものが多い)を残すことが多いボクサー骨折に対し、固定に工夫をする事により整復位の保持が簡単に出来たので報告する。

# 《症例》

13歳 男性

〈受傷原因〉

右手で壁を殴った際負傷。

〈傷病名〉

右第5中手骨頸部骨折(ボクサー骨折)

# 受傷時X—P像



正面像

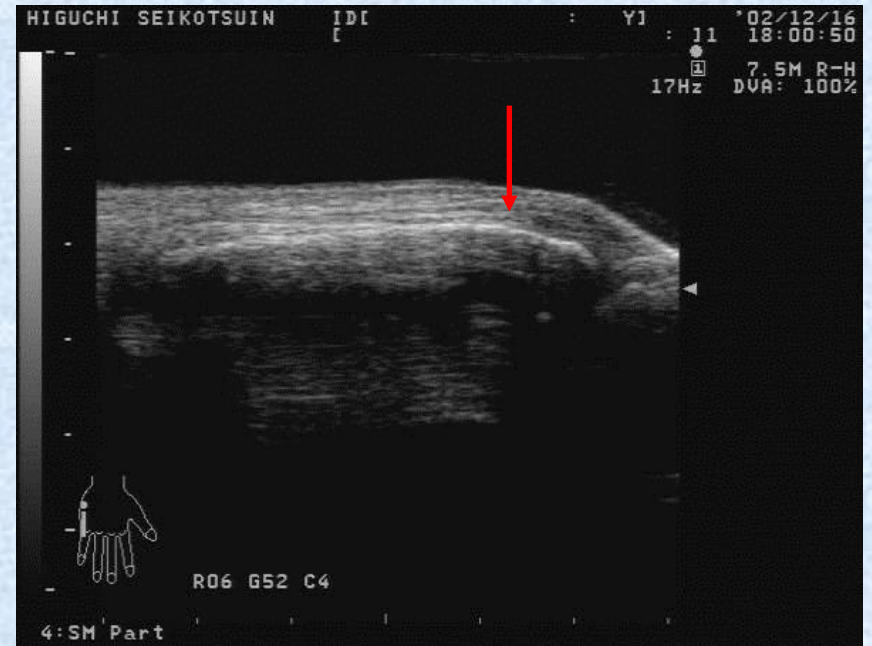


斜位像

# 受傷時エコー画像



健側背側より長軸



患側受傷時背側より長軸

# 〈整復法〉

MP関節90度屈曲位(虫様筋の弛緩)とし、掌屈、末梢牽引、内旋、背屈し整復を完了した。

# 整復後エコー画像



患側受傷時背側より長軸

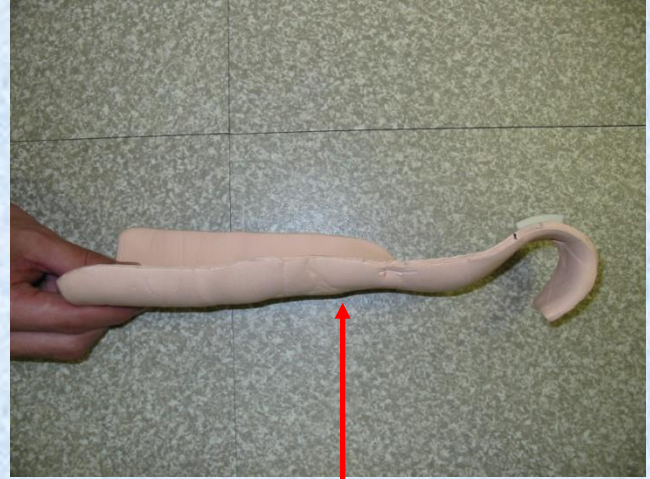


患側整復後背側より長軸

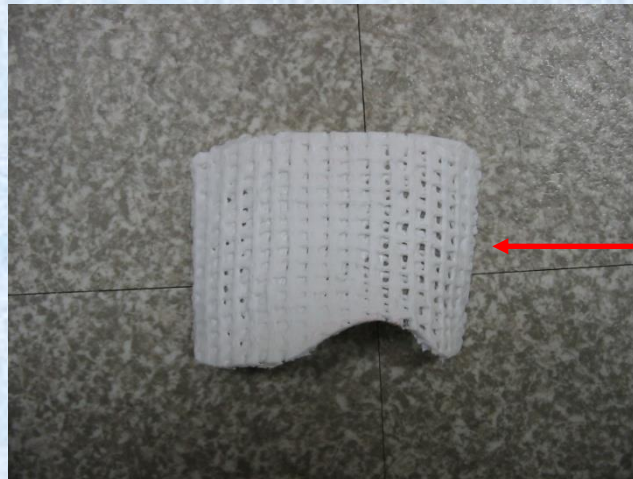
# 固定材料



ソルボプレーンシート



ポリキャストEX



プライトン100



# 固定肢位・固定範圍 1



# 固定肢位・固定範圍 2



## 〈固定肢位〉

前腕回内位、手関節軽度背屈位、第4・5MP関節70度屈曲位、PIPおよびDIP関節軽度屈曲位とした。

## 〈固定範囲〉

前腕上1／3より第4・5指尖まで。  
掌側にポリキャスト副子、中樞骨片背側よりプライトン副子を当て、末梢骨片掌側にソルボプレーンシートを挿入した。

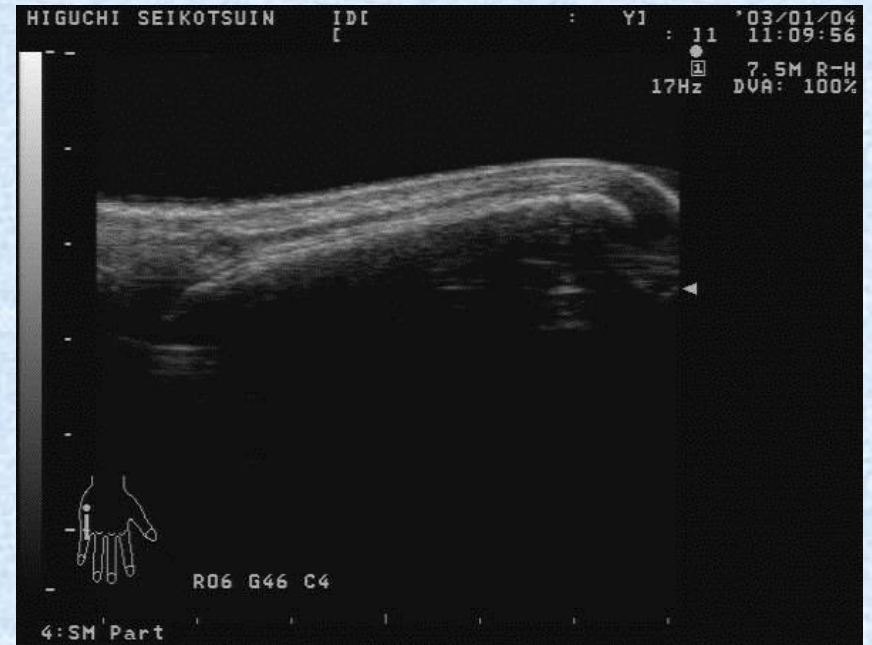
## 〈固定期間〉

3週間

# 3週間後エコー画像



健側背側より長軸



3週間後患側背側より長軸

# 3週間後X—P像

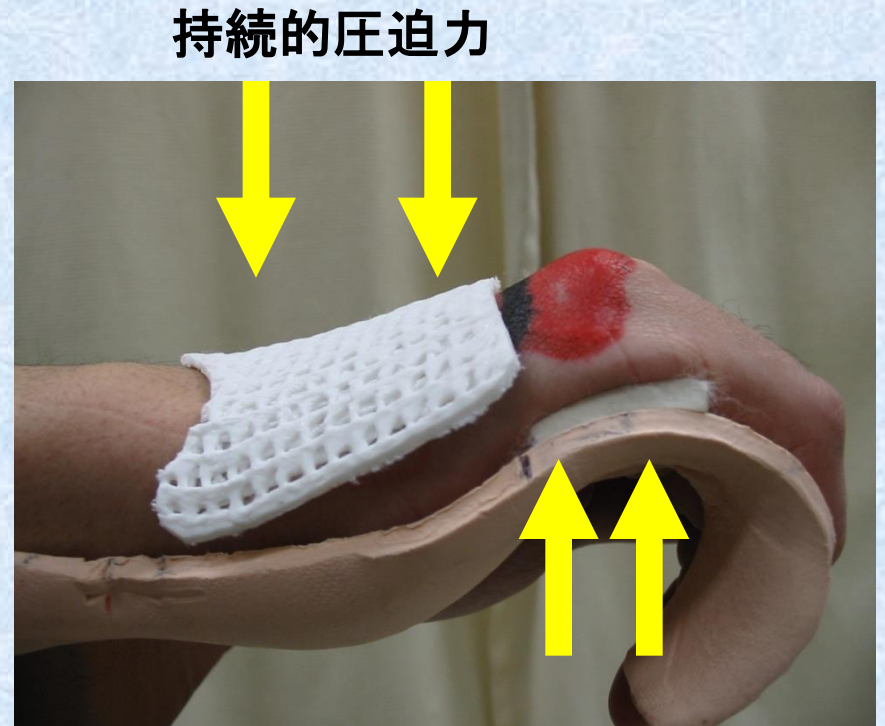


正面像



斜位像

# 背側・掌側への持続的圧迫力



持続的圧迫力

# 結果

中枢骨片背側のプライトン副子



持続的掌側方向への圧迫力

末梢骨片掌側のソルボプレーンシート



持続的背側への圧迫力

**固定中の背側凸変形を防止**

## 【考察】

- 従来ボクサー骨折に対し、虫様筋を弛緩させ指背腱膜を緊張させることにより整復位を保持するためMP関節70度屈曲位固定としてきたが、許容範囲の40度以下ではあるものの背側凸変形を残すことが多かった。
- 今回の方法を用いることにより整復位を簡単に保持しその状態で骨癒合が得られるようになった。
- 機能的予後には何ら問題ない程度の変形治癒であっても、患者さんにとっては大きな問題となる場合も多い。柔道整復師は、骨癒合時の外見的評価を今まで以上に大切にすべきであると考えます。



## 【使用機器】

- ALOKA社製 SSD-900
- SSB社製 ウルトラ三四郎

## 【参考文献】

図説 骨折・脱臼の管理〔Ⅱ〕第3版： Depalma,  
Connolly著. 監訳者 阿部 光俊. 廣川書店.  
東京. 1991.